

ビ

ー

だ

ま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2015 年 1 月～6 月に図書館に入った本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町 5 番 1 号

電話 076-461-3200

平成 27 年 10 月 27 日発行（年 2 回発行）

ABC！ 曙第二中学校放送部

市川朔久子/著 講談社



みさとの所属する放送部は、この春で部員 2 名となった。はじめはそれでも構わないと思っていたが、顧問の先生の熱意や、新入生の入部で、しだいにやる気が出てくる。

そんなある日、みさとはひょんなことから、美人転校生の葉月が罵詈雑言を叫ぶところを見てしまう。それ以来、みさとは彼女が気になってしかたがない。葉月が放送部経験者らしいということもあり、思わず入部を頼みこむ。

雲をつかむ少女

藤野恵美/著 講談社



いつでも誰とでもつながれるネット。結衣はある動画をきっかけに、学校ではあまり話をしない楓のことが気になるようになる。実際に話してみたいとも思うが、クラスで孤立している楓に話しかける勇気が出せずにいた。そんなとき、友だちが楓をからかうような発言をする。

小学生からおばあさんまで、ネットとリアルの間でゆれる人びとを描いたオムニバス。

赤いペン

澤井美穂/作 中島梨絵/絵 フレーベル館

夏野は、不思議なペンのうわさを集めている。

ある大学生は、赤いペンを拾ってからというもの、朝起きると、書いた覚えのない手紙がノートに書かれるようになったと言う。それは、幼いころに忘れてしまった親友からの手紙だった。

さまざまな人びとが語る赤いペンにまつわる話は、やがて夏野をある作家のもとへと導いていく。



リフカの旅

カレン・ヘス/作 伊藤比呂美+西更/訳 理論社



1919年、ロシアのユダヤ人迫害を逃れ、リフカと家族はアメリカへ出発する。しかしリフカの頭皮に皮膚病が見つかり、1人だけ入国を拒否される。

家族と離れて治療し、1人で海を渡るが、今度は髪がないことで入国拒否される。髪は治療のために切って以来、生えていなかった。伝染病病院に入れられたリフカは、ロシア人の子どもの世話をすることになる。

神々と戦士たち I 青銅の短剣

ミシェル・ペイヴァー/著 中谷友紀子/訳 あすなろ書房



ある日、ヒュラスは突然黒い鎧の戦士たちに襲われた。幼い妹とはぐれ、なんとか逃げ込んだ墓の中で、瀕死の若者と出会う。若者はヒュラスに青銅の短剣を託し、「背びれ族」が海で待っていると言い残して死ぬ。

自分が襲われた意味を知ろうと海に出たヒュラスは、サメに遭遇する。死を予感したそのとき、海が青く光りだした。

コミック密売人

ピエルドメニコ・バッカラリオ/作 杉本あり/訳 岩波書店

1989年、ハンガリーでは、コミックを読むことが禁止されていた。そんな中、シャーンドルは謎の男からコミックを手に入れ、それを仲間たちと売りさばいていた。

ところが急に男が来なくなり、続きを待っている顧客の前に、シャーンドルは途方に暮れる。窮地を救ったのは、仲間のニコライの機転だった。残っているコミックを、順番に貸し出すことにしたのだ。すべてうまくいくかに思われた翌日、シャーンドルは校長先生に呼び出される。



マザーランドの月

サリー・ガードナー/著 三辺律子/訳 小学館



15歳のスタンディッシュは、字を読むことができない。代わりに豊かな想像力を持っていたが、そのことをわかってくれるのは、親友のヘクターだけだった。

ところが、ヘクターの両親が国のある計画に反抗したことで、一家全員が連れ去られてしまう。スタンディッシュはヘクターを救うため、たったひとりで恐ろしい計画に立ち向かっていく。

仮面の街

ウィリアム・アレグザンダー/著 斎藤倫子/訳 東京創元社



芝居を演じることが禁止されている街、ゾンベイ。ロウニーは、魔女のもとで暮らしながら、兄のロウワンを捜している。ロウワンは仮面をつけて芝居をしていたことから、警備隊に追われて行方不明となっていた。

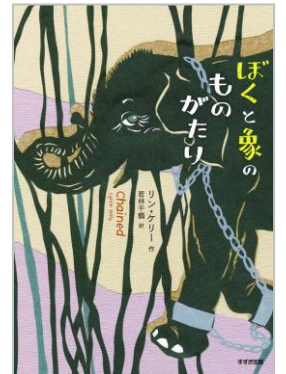
ある時、ロウニーは魔女の監視の目を逃れ、ゴブリンの芝居の一座にもぐりこんだ。ゴブリンたちも、ゾンベイ市を洪水から救うために、ロウワンを捜していると言う。

ぼくと象のものがたり

リン・ケリー/作 若林千鶴/訳 鈴木出版

インドの少年ハスティンは、妹の治療費を稼ぐために、サーカスで象の世話をすることになった。

しかし、何かと理由をつけて借金を増やされ、なかなか家族のもとへ帰れない。それは、ハスティンが世話をする子象も同じだった。つらい訓練に耐える姿を見かねて、ハスティンはある晩、子象をつれてサーカスを逃げ出した。ところがジャングルに着いても、子象はそばを離れようとしな



夢へ翔けて 戦争孤児から世界的バレリーナへ

ミケーラ・デプリンス/著 エレーン・デプリンス/共著 田中奈津子/訳 ポプラ社



アフリカ生まれのミケーラは、内戦で両親を亡くし、孤児院に入れられた。そこで拾った雑誌に載っていたバレリーナにあこがれを抱く。その後、アメリカの里親に引き取られるが、人種差別がバレリーナへの道を阻む。

しかし、ミケーラは決してバレリーナになる夢をあきらめなかった。その希望を持ち続ける力こそが、自分が持つもっとも恵まれた力だとミケーラは語る。

【 執筆：崎川（大沢野図書館） 】